

「平成 27 年度の目標及びその達成に向けた活動の点検・評価（案）」に対する意見募集の結果について

平成 28 年 3 月 15 日（火曜日）から平成 28 年 4 月 15 日（金曜日）まで、市農業委員会における「平成 27 年度の目標及びその達成に向けた活動の点検・評価（案）」について市民の皆様からご意見を募集しましたが、結果は次のとおりです。

貴重なご意見、誠にありがとうございました。

意見募集の結果

山川神代 2 丁目 男性（72 歳）

（意見）

現在の日本農業の現状は農家の高齢化や減少、後継者不足による耕作放棄地の増加など非常に厳しい局面を向かえております。その一方で久留米市東部ブロックについては、農業後継者や新規就農者、担い手の育成や農事組合法人の設立など進みつつあり、将来の農業の姿を見据える準備が整っていることと感じています。そのようななかで久留米市の都市計画を見てみると優良農地として活用できる農地が市街化区域となっており、このような農地が離農等の理由により耕作がなされなくなった場合、農地賃貸借の利用権の設定ができないためその後、耕作放棄地となる可能性が危惧されます。今後久留米市の耕作放棄地の減少及び豊かな農業を目指していく上で、下記の通り要望致します。

- 1 市街化区域における農地賃貸借の規制緩和
- 2 久留米市都市計画の見直し

山本町耳納 女性（63 歳）

（意見）

山本、耳納の農地は道路、よう排水路の整備が成されていない為、利用価値が殆どないに等しいと思います。

整備が成されると農作業の効率化はもちろん借りて、もしくは買い手さえも現れるのでは？

耳納は植木生産者の方が今迄多かったうえに高齢化が進み荒れ地が至る所にあります。

大きな車、重機なども入れません。

農業離れ、後継者不足はもちろんあると思いますが、このままでは耳納（農地）は全く悲惨な状態になるのではと、とても大きな危機を感じています。

以前に、この事に関して大きなチャンスがあったことを聞いております。そのことがとても残念です。

是非、国の力を借りて将来的に展望ある整備をお願い致します。一刻の猶予もないと思っています。

山本町耳納 男性（63歳）

（意見）

昔は、みかん、柿、植木といった作物があったが、時代とともに作がらが変わっている。若者を呼ぶためには新しい基幹作物となるものが必要である。道路の整備も必要であるが、そこに作る作物がなければ意味がない。何か山本に合う作物、ヒットする魅力ある作物を作ることが一番である。

土地に白地と青地があるが、白地でも助成金の対象となるように条件付きでも許可がおりるようにしてほしい。

山本町耳納 女性（60歳）

（意見）

農地・農業の今後について

- ・荒地の整備など、個人ではなかなか実行出来ない。（資金面、労力面など）
- ・農道の整備 整備されている道の優先順位が不明である。（中途半端なところまで整備されている）
- ・水路の整備
- ・市街化調整区域のくくりの是非
- ・企業・行政誘致など
- ・農業の法人化は後継者不足で維持できるか不安。販売ルートの確保などいろいろな問題があるのでは。